

移動図書館寄贈プロジェクト

昨春、野田代表、下谷両名が南アを訪問した際、提示された中古移動図書館車の寄贈プロジェクトの進展状況を報告いたします。

国内ではディーゼル排気に含まれるNO_x排出規制の強化に伴い、近年中に首都圏の図書館車の多くが、新エンジン搭載の車両に代替されることになりました。そのほとんどが解体される運命とあって、まだまだ十分に使えるこれらの車を圧倒的に本の足りない南アに寄贈し運用すれば、我々が既に送った本を何倍にも活用できるという発想が生まれました。この時点で7つの問題点が洗い出されました。

- ① いかにして車両を手に入れるか？
- ② 暫定的に保管する場所は？
- ③ 整備の程度は？（資金と車の程度による）
- ④ 輸出に関する問題は？
- ⑤ 輸入（南ア側）の規制の問題は？
- ⑥ 移送の方法、費用は？
- ⑦ 現地での有効運用法は？

これらの問題を一つ一つクリアするために昨年5月より徐々に活動を開始しました。まずは浦和市役所の石塚社会教育部長から道は開かれました。多くの図書館車の改造を手掛ける大宮の林田製作所の存在を教え



南ア送付第1号車
1995. 4. 4. 出港

ていただき、早速アプローチすると同時に皆で手分けして首都圏の各自治体に趣旨を手紙で知らせました。林田製作所(窓口-岡田さん)の協力は、無手勝流の素人集団にとっては百万の味方を得た思いでした。

第1号車は林田製作所に保管してあった車を、少し間をおいて手紙ローラー作戦が奏功し松伏町の公民館より申し出があり、取り敢えず年内に2台の車が確保されました。保管は一時的にトヨタオート東埼玉(株)(飯塚社長)のご好意でモータープールに、又、最難関の南ア側の輸入規制(周辺5か国の南部アフリカ関税同盟による)は野田代表が現地の瀬崎大使やマニユエル通産大臣が来日した際に直訴し、又、毎日新聞の在ヨハネスバーグの福井記者の骨折りにより、輸入関税免除許可がおりるまでに漕ぎつけました。輸出申請はタカセ(株)に代行

をお願い、移送は商船三井がダーバンまで無料で請け負ってくれました。更に整備はトヨタ東京カーライフサービス(株)の太田さんのご尽力で格安で済ませ、遂に4月4日バイオレットエース号に船積みされ、化粧直しされた2台の図書館車は第2の活躍の地を南アフリカの大地に求めて旅立ちました。

現地からは二つのボランティアグループから運用計画が提出されており、申請中の郵政省のボラティア貯金の助成金が認可されれば、運用資金の一部負担、又搭載する本をジャンル別にカナダのボランティア団体から送ってもらう送料に当てる計画もあります。

5月2日の陸揚げ後の受入がスムーズに運ば、いよいよ5月中旬には運用開始です。
(浅見克則)



第1号車を見送る 1995.3



バントリー氏家でデイトン学校の校長ドベ氏らと
話し合うバントリー夫妻(右) 左は会員の下旬
1994.3

日本から送られた車を使う

移動図書館活動プラン

イーストランド教育フォーラム代表

デイビッド・ベントリー

イーストランド教育フォーラムは、私たちが本を送ってきた南アの教育団体です。昨年、南アを訪れた時、フォーラムの代表ベントリー氏が「いつか移動図書館を黒人居住区で実現させたい」という夢を語るのを聞き、いつか実現したいと私たちも思ったのでした。今、その夢がかないつつあります。日本で使っていた移動図書館車が2台、海を渡って南アに向かっている最中なのです。以下はベントリー氏から今年になって送られた活動プランの内容です。

イーストランド教育フォーラムの 活動と地域の教育状況

East Rand Education Forum は、ベノニ/デイビトン地域(ヨハネスバーグから東約35km)にあるメソジストキリスト教徒のボランティア団体で、これまでの5年間この地域の教育に従事してきました。ヨハネスバーグ首都圏の一区域であるこのベノニ/デイビトン地域は、約400km²の面積を持ち、白人都市ベノニと黒人の姉妹都市デイビトンから構成されます。全人口は約40万人です。

アパルトヘイトの時代では、異なる人種はそれぞれ異なる地域に住むことが政府の方針とされてきたので、それぞれの都市には白人地域と黒人地域があり、通常はお互いに隔離された状態でした。このベノニ/デイビトン地域はその典型的な例です。白人地域と黒人地域にはそれぞれ独自の学校やその他の施設があり、常に白人地域の施設は黒人のものとは比べて格段に上等でした。

施設、特に学校の不平等を目のあたりにしてベノニにあるメソジスト教会は次のような活動を通してこの格差を克服していく試みに従事するようになりました。

- デイビトンの生徒のために土曜学校を開く
- 黒人生徒のための学校が存在しない農村

- 地域に学校を建設する
- 寄付された本を学校の図書館に配送する

現在南アフリカは、民主主義の政府を持ち、法的なアパルトヘイトは廃絶されました。このため今では誰もが好きな所に住むことができ、生徒も好きな学校に行くことができるようになったのです。しかし、大半の黒人家庭は、経済的に旧白人地域に住む余裕はありません。また、デイビトンからベノニまでは約10kmの道のりがあるので、黒人の生徒が旧白人学校に通うには遠すぎます。このように南アフリカでは政治的には多くの変革がなされましたが、大半の黒人生徒に対してはほとんど何も変わっていないのが現状です。旧白人学校に通う黒人生徒もいますが、その数は極限られています。

なぜ移動図書館が必要か

メソジスト教会にとって、黒人生徒大半の教育レベルを向上していくためにこれからも教育に従事し続けていくことは絶対に必要なことです。デイビトン地域には約25万人の住民がおり、現在約42校の学校が7万5千人の生徒を抱えています。

私たちの組織は完全にボランティアを基盤として運営されているため基金をまったく持たないのですが、下記のプロジェクトを検討し

ているところですが、

- デイビトンに学校を建設する。メソジスト教会がこれを管理していくようになるか、あるいは、学校が完成したら教育関係当局に手渡す。
- 土曜学校を拡張する。
- 学校の移動図書館を始める。

これらのプロジェクトのうち1番目は多額の資金を必要としますし、今のところ適切な調査を行っていません。2番目は、より多くのボランティアの教員を必要とします。移動図書館のプロジェクトは、日本の「アジア・アフリカと共に歩む会」から寄付された本を学校に配送する活動を通して進展してきたものです。ここ2、3年間、私たちの組織はこの「アジア・アフリカと共に歩む会」と協力して、デイビトン地域のさまざまな学校の図書館に1万5千冊以上の本を配送してきました。

デイビトンの大半の学校は、教室が非常に不足しているので図書館が教室になっており、ごく僅かの図書館用の本(2千人以上もの生徒がいる学校に100冊しか本がないこともあります)を倉庫部屋に移しています。このためデイビトン地域の多くの生徒は、子供が学校で図書館を利用するという当然のことができない状態にあります。

私たちは、当地域で多くの本を配布しましたが、生徒数が多いことを考えるとこれは僅かな穴埋めにしかすぎません。そこで、全ての学校に利用される移動図書館を使うというアイデアを考案するようになりました。

学校間を移動する図書館車
—— 教員用の本も積んで ——

考案としては次の通りです。ガレージと移動図書館の本全部を保存できるような倉庫部屋がある学校を1校、移動図書館の拠点にします。移動図書館は毎日4校を訪れ、教員たちは、2、3週間後に移動図書館員が戻ってくるまで授業用の本を利用できます。図書館の本として、読み物、参考書、授業用の本(各生徒がその本のコピーを持つことでクラス全体で使えます)などを入れます。また、教員が授業の準備に使えるような教員用参考書も含めます。

図書館稼働に要する費用

この図書館には2人の訓練を受けたスタッフを置きます。スタッフは図書館を管理したり本の選択や授業における本の使用法などについて教員にアドバイスをします。42の学校に十分対応していくためには、最低10万冊の本が必要です。本を購入しようとするとも百万ランド(3千万円)以上の資金が必要となるので、私たちは南アフリカで本の寄付を得るべく、全力を尽くしていこうと思っています。

私たちの組織への寄付を目的に、「アジア・アフリカと共に歩む会」に移動図書館車が寄贈されました。この車は1995年前半に当地に無料で到着する予定になっています。しかしプロジェクトの運営を賄う資金が必要です。年間予算を次のように計算してみました。

スタッフ (2名の図書館員)	
1人1ヵ月 R3000 (9万円)	R72,000 (216万円)
管理費	R28,000 (84万円)
運営費 5万km @ R2/km	R10,000 (30万円)
計	330万円

教育向上が不利な立場の子供の将来を
明るくする

この移動図書館プロジェクトは、7万5千人の不利な立場にいる生徒に学校の図書館を提供するものです。現在彼らは図書館にアクセスできない状態にあります。図書館を与えることで生徒の教育は向上し、それによって将来の仕事の見通しが明るくなります。将来、これらの生徒がより良い仕事に就くことで、その家族にも貢献できます。このことは、南アフリカにおけるアパルトヘイトの悪と、アパルトヘイトが恵まれない人々に与えた影響とを払拭していく長い道のりの大きな第一歩となるのです。

(久我 祐子訳)

神戸被災外国人学校に援助を



外国人学校の再建に、私たちの小さな力を

当会では南アへ支援するのと同じ立場から、被災学校援助に取り組むことにしました。この度の阪神大震災では、多くの教育施設が甚大な被害を受けています。その中でも外国人学校は、校舎の再建や修理費の大出費のほかに大きな困難を抱えています。外国人学校は各種学校の扱いを受けているため運営費の国庫補助がなく、父母や後援者による寄付金と授業料などで学校を運営していたのですがその父母や後援者の被災により寄付を依頼することが難しくなっています。外国人学校は二重の被害を受けているといえましょう。会からは3月1日に佐保美恵子が東神戸朝鮮初中級学校を、3月16日には同校と神戸中華同文学校の2校を訪れました。会ではすでに郵便振替口座を作り、義援金を集め始めています。

◆郵便振替口座番号： 00100-0-46745
加入者名： 「学校災害義援金」

東神戸朝鮮初中級学校を訪ねて

「学校再建の先行きを考えると、本当に不安です。日本政府は被災者には国籍を問わず、超法規的救済措置をとっているのに、外国人学校にはなぜとれないんでしょう……」

まだ寒さの厳しい3月1日、神戸市中央区にある東神戸朝鮮初中級学校教務主任の李先生は、プレハブの仮職員室で終始沈んだ表情だった。神戸市内の三つの朝鮮学校で、同校は最も被害が大きかったところだ。

床や柱に走る大きな亀裂、所々盛り上がった床、崩れ落ちた天井や壁、粉々に飛び散ったガラスの破片……。教材用のテレビ、校内放送、コンピュータはもう全く使いものにならない。4階建て校舎の最上階にある講堂は、とくに惨憺たる状態だ。天井板はことごとく剥がれ落ち、それらを支えていたアルミの梁が鉛細工のようにグニャッと曲がって何本もぶら下がっている。1月17日の午前中、この講堂で幼稚部と初級部の生徒たちが、学芸会の練習をする予定だったという。もし数時間遅れて、地震が発生していたら……。

「本当に不幸中の幸いでした」

天井を見上げながら李先生が呟いた。

全校生徒236名中、3月1日時点で92名が疎開中。残った生徒たちは近隣の朝鮮学校で授業を受け、3月下旬からは校庭に仮設するプレハブ教室に戻ってくる予定だという。また同校では在校生1人、在校生の家族2人が亡くなっている。失ったものは大きい。

3月半ば、文部省は被災地の学校再建に向けて公立校には工事費の90%前後、私立校には50%の国庫補助を決定した。各種学校に分類される外国人学校も今回は日本の私立校並みに、なんとか50%の国庫補助が受けられることになった。ただ外国人学校は日本の私立校と違って、運営費に国の補助がない。

東神戸朝鮮初中級学校の場合、これまで学校運営費の約10%は兵庫県と神戸市からの補助金で、約30%が月謝、約60%が父母からの寄付で賄われてきた。業者の見積もりでは、建て替えには約12億円もかかるという。

「国庫補助で賄えない建設費はどうするのか。新校舎が建設できたとしても、そのあとの運営費はどうするのか。父母には自営業者が多く、仕事場の被害も大きい。そんな状況では到底寄付を期待することはできません」

再建が始まって、李先生たち学校側の備

みは延くと続く。

今年には戦後50年の年。日本が敗戦した1945年8月15日は、朝鮮半島の人々にとっては植民地支配からの解放を象徴し、光復節と呼ばれている。植民地時代に奪われた民族の言葉、文化を取り戻そうと50年前、在日朝鮮人一世たちによって日本では次々と朝鮮学校が建設されていった。東神戸朝鮮初中級学校もそんな中、寺子屋のようにして始まったという。戦前、戦中、日本がアジアで何をしてきたか。戦後、何をしてこなかったか。阪神大震災を通じて、日本政府のそして日本人の心が今、改めて問われようとしている。

子供には満足な教育を受けさせたい。どんな状況におかれても、子供だけには不自由な思いはさせたくない。南アフリカ人であろうと、韓国朝鮮人であろうと、日本人であろうとも、そんな親心に国境はないはずだ。

(フリーライター：佐保美恵子)

神戸中華同文学校を訪ねて

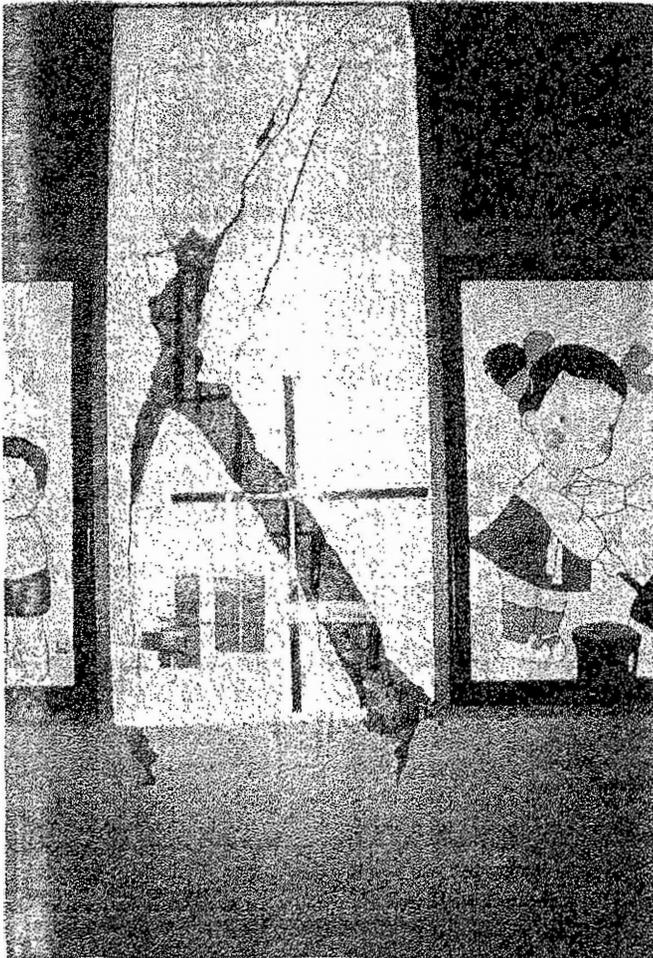
私は、3月16日、兵庫県神戸市中山手通にある神戸中華同文学校を訪ねた。同校の前身は1899年に設立された華僑同文学校で、その教育目的は民族教育を通じて華僑子女が祖国に関する正確な知識を習得し、徳育、智育、体育各方面にわたって発展を遂げ、中国人としての自覚を身につけ、将来、中日友好事業に積極的に貢献できるようにすることにあるという。

同校は、日本の小・中学校に当たる課程の教育を行っており、中国人としての民族教育を施しつつも、日本社会で共生できるよう、日本の学校教育で行なわれることは、その比重に違いこそあれ、ほぼ全て網羅されている。例えば、中学3年では、中国語を5時間教える一方で、日本語にも同じ時間を割いているし、「日本社会」という科目も3時間設けている。

今回の震災では、校舎には幸いにも大きな被害は出ず、校舎の継ぎ目に約3千2百万円近くの破損が生じたが、1月下旬から授業も再開されている。

校舎の復興に関しては、学校教育法上、各種学校扱いされている外国人学校も、特例で2分の1の公費助成が受けられることとなった。だが、大変なのは、復興よりもむしろ今後の運営費だという。同校の蔡勝昌・総務主任によれば、外国人学校には基本的に私学助成のような制度は一切存在せず、華僑の人々からの寄付金と授業料でなんとか運営しているという。幸い神戸市と兵庫県は理解があり、ある程度の特例的助成はあるそうだが、それでも、今回の震災により、多くの華僑商工人、保護者が被害を受け、今後の運営費のメドは全くたっていないという。

蔡主任は「在日外国人に日本をよく理解してもらうことは、必ず日本社会の利益や国益に合致する。ODAよりも国際的理解を受けるには手っ取りばやい方法ではないか」と力強く訴える。



1995. 3. 16 東神戸朝鮮初中級学校

皆さんが送って下さった本が南アへ送り出されるまで

◆作業現場へ届くまで

1 直接、野田の家に小包みや託送便で送られてくる。玄関に積んでおきますがある程度の量になると車で10分の所にある公文教室の物置へ運びます。

物置きは昨年二つ作りました。

2 インターナショナルスクールや出版社などから大量の寄付の申し出があると会員が仕事の都合をつけて車で引取にいきます。中には学校の車で届けて下さったインターナショナルスクールもありました。

皆さんへのお願ひ：①取りにいく、車に積み込むという仕事は大変な力仕事です。20%、30%というダンボールを持ち上げる重労働です。力仕事を厭わない方の参加を歓迎いたします。②送って下さったダンボールは再度運ぶことになるのですぐ開けないことが多いのです。そこで手紙やお金はダンボールに入れないで別にお送り下さるよう願ひいたします。

◆作業現場で

1 1ヵ月に1度位、一緒に仕事をしたいと申し出て下さっている20人位の方(会員)に連絡をして、埼京線南与野の公文教室に集まってもらいます。大抵8~10人程度が集まります。

2 物置から本を出してコンテナ用の厚手のダンボールを組立、本を分類します。大中小別、種類別。入れていく時は種類に気を配りながら、冊数を数えますので、話し掛けられるとわからなくなってしまいます。そのため10人位人がいても静かな風景です。

3 集まるメンバーは少しずつ都合で入れ代わりがありますが、10代の高校生から60代までの男女、職業もいろいろです。

皆さんへのお願ひ：日曜か祭日に行なっていますので、ここでも働く方の、特に力仕事のできる方の参加をお待ちしています。学生さん、お父さん方の参加をお待ちします。

◆送り出すまで

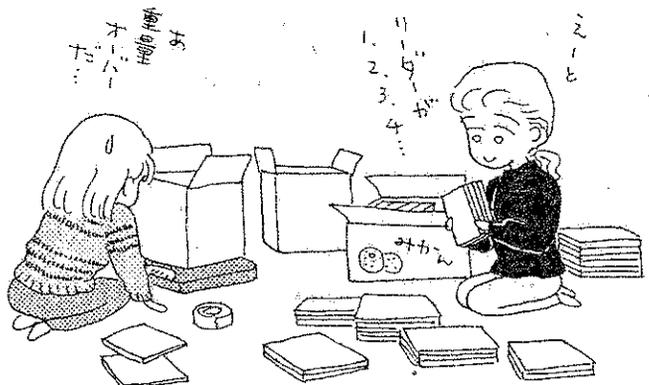
1 ダンボールが80~90個になると運輸会社に取りにきてもらいます。1個

1個についての内容、冊数、重量を記載した書類を作ります。

2 輸出手続きを会社に依頼し、送付先にはこちらから連絡を入れます。



信田三草画



「アジア・アフリカと共に歩む会」決算書

収入の部	
寄付金	1,702,849円
物品販売	33,500
利息	7,692
前年度繰越金	1,551,435
合計	3,295,476
支出の部	
輸送費	560,171
通信費	268,012
交通費	60,747
講演費	24,582
接待費	5,270
事務費	54,370
備品費	232,853
図書館車諸経費	193,044
雑費	14,605
合計	1,413,654
差引残高	1,881,822

上記の通り報告いたします。
1994年3月25日 吉田 妍子

資金と本の寄付を続けて
お願いいたします。



英語の本の送付は移動図書館
が始まると今以上に必要にな
ります。がんばっていきたく
と思います。よろしくお願
いいたします。

◆「マリーの選択」佐保美恵子著 文芸春秋 刊(1800円)

「手でふれた南アフリカ」植田智加子著 径書房刊(2266円)

を入手されたい方は当会へご連絡下さい。

(野田 千香子)

◆5ページの被災外国人学校支援は息長く続けていきたいと考えています。少なくとも来年3月までは続けます。

郵便振替口座：00100-0-46745

加入者名：「学校災害義援金」

送られた義援金は二つの学校へ直接送ります。4月末にそれまで集まった義援金を一度送り、そのまま募金は続行しますので、当分の間どんどん寄付を続けて下さい。各学校の復旧や経営状態についての報告はこの紙面などでお知らせしていきます。3月21日現在で325,512円になっています。

(程塚・矢野)

◆南ア直輸入のルイボステイ1箱80パック入りを5箱一万円で販売しています。5箱から送料無料です。ご注文はハガキか函でお願します。

またサンプルとして2パック入り1袋100円でおわけしています。この場合は手紙に80円と100円の切手を同封してお申し込み下さい。1パックで1リットル以上のテイーが召し上がれます。

(吉田)

◆南アへの移動図書館活動や本送付と会の運営費への寄付金は下記の振込先へ引き続きよろしくお願申し上げます。

(野田 千)

◆5月12日NHKラジオ「タカ^Aの広場」(6時~6時40分)で当会の被災学校支援活動についてインタビューを受けます。 ^B ~~ラジオ~~ F.M.

◆会報の送付を不要とされる方はハガキ、TEL、函にてお知らせ下さい。

自由の声 第8号

1995年5月1日発行

新所 アジア・アフリカと共に歩む会

〒338 埼玉県与野市大戸5-17-1 野田方

Tel 048-832-8271

Fax 048-832-3607

郵便番号: 「アジア・アフリカと共に歩む会」 00100-4-608515